

令和2年度 市長とオンラインミーティング（第3回） 参加者発言要旨

令和2年10月31日（土）10:00～11:30

開催	参加者活動種別	発言要旨
第3回 (10月31日)	心の健康教育（任意活動）	<ul style="list-style-type: none"> ●不登校や虐待などに対する10代の児童のケアは学校だけでは解決しないこともある。そこで、不登校などの10代の子供たちが交流できる「出前保健室」という取り組みを既存のカフェなどを利用して開催したいが、どうしたら良いかアドバイスが欲しい。新しいスタイルでまだ一緒に行く人がいないため、「まずは知ってもらいたい」また「地域の人達と広めていきたい」という思いがある。 ●Zoomのイベントに参加できるのはZoomが使える人だけなので、『オンラインイベントを実施したい』という人にZoomの使い方を教えてもらえないか。民間実施だと『何かに勧誘されるんじゃないか』という不安がある。オンラインイベントの実施の仕方を公共の方が発信してくれたらと思う。 ●西宮市のLINEではコロナに関して現状を細かに発信していただいたことや、市長が動画・肉声で情報発信していただいたことで非常に安心した。
第3回 (10月31日)	囲碁サークル（任意団体）など	<ul style="list-style-type: none"> ●囲碁を教えているが、囲碁は3密だと言われている。しかし、連碁や多面碁、青空教室などの方法であれば密にならない。現在は、新たなスタイルで実施している。囲碁はやり方によって3密を避けられるので、市からそれを発信して欲しい。
第3回 (10月31日)	共生型地域交流拠点	<ul style="list-style-type: none"> ●共生型地域交流拠点を開設して3年目だが、コロナの影響で3月から閉め、6月から再開した。閉めていた間、スタッフと『高齢者のフレイルをどう予防するか』を考えて、引きこもり対策としてサロン便りを発行してクイズを出し回答を持ってきたらポイント付与する取り組みを行った。直接は受け取れないため、クイズの回答をポストに入れてもらう形にし、たくさんの方がサロンに足を運んでもらえた。6月からクイズは続いており、来店者や大学生も難しいクイズを考えてくれて、皆が自分のレベルに応じたクイズを解いて良い脳トレになっている。 ●6月に再開した際に、高齢者から『認知症が進んだ』や『足が動かない』、『死にたい』といった声が聞こえてき、『たった3か月でこんなことになるのか』と感じた。高齢者の希望は食べることと健康のことである。特に健康のことはこちらが企画しないと高齢者個人ではどうにもならない。骨粗鬆症の測定に医療生協が無料で簡単に来てくれているのだが、西宮市でもそういったことを考えてほしい。現在、西宮市も脳内年齢や握力の測定器を貸しているが、重くて車なしに運ぶことができない。軽量またはパソコン版などの持ち運びし易い測定器等を導入し、血管年齢測定器も合わせてどこか1カ所にこれらの機器を置いて貸出して欲しい。 ●高齢者交通助成は来年度から廃止されるようであるが、続けて欲しい。
第3回 (10月31日)	地区青少年愛護協議会 地区社会福祉協議会 NPO活動 など	<ul style="list-style-type: none"> ●放課後子ども教室で月1回土曜日におにぎり食堂を実施していたが、コロナ禍の中で全くできなくなり、8月からは屋外遊びだけ再開している。社協では月1回の高齢者が集まる「昼食会」ができなくなり、一歳前後の子供を持つお母さんが主に参加する「お茶所」は7月から再開した。また、他にNPOでの活動として料理教室をしていたが、できなくなったため、今はオンラインで実施している。 ●他の参加者がされている様な共生型地域交流拠点が今後の地域の核になっていくと思っている。地域での共助が理想である。私の地区でも、不登校の子供や高齢者など社会的弱者の方が集える共生型地域交流拠点を立ち上げたいが、個人または数人の力では難しい。場所を探したりするなどのバックアップを市にお願いしたい。
第3回 (10月31日)	自治会 NPO活動 居住支援活動（任意団体） 福祉従事者 など	<ul style="list-style-type: none"> ●高齢者がコロナや夏の暑さのため、地域（自治会）で実施していた児童遊園の掃除をやめたので、「草引きボランティアカード」を導入した。草引きボランティアは土日に15名までとして募集し、今迄のアナログ手法をやめて子供会を引き込んでLINEで呼びかけたり、参加景品も人と会わずにネットショッピングで購入するなど新しい手法を取り入れた。子供を中心にその父兄も集まり、延べ200人以上が参加した。公園をきれいにすることができ、町内会の中心となる80代の方々と30～40代の方々につながりができた。ここをつなぐのが我々50～60代の役割だと考えている。 ●ケアマネジャーの仕事をしているが、コロナ禍において利用者との月1回の面談がなくなり、これまでできなかった電話やLINEでの面談が可能になった。お互い負担になっていた部分もあったので、良くなったと思う。まだ認知症ではない方たちはオンラインを通じてのやりとりが可能なので、そもそも『会わないといけないのですか』と言われる。 ●マンション管理に関して、管理組合の総会や寄り合いができなくなり、更に市が実施しているマンション管理実務・基礎セミナーも中止になった。全てが止まってしまった。市のマンション管理実務・基礎セミナーは今回のようなオンラインミーティングのようにZoomなどオンラインで開催できないものなのか検討してほしい。

令和2年度 市長とオンラインミーティング（第3回） 参加者発言要旨

令和2年10月31日（土）10:00～11:30

開催	参加者活動種別	発言要旨
<p>第3回 (10月31日)</p>	<p>子ども食堂</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●多世代が集える食堂を3年程前からボランティア10数名で運営し、70名ほどが集っていたが、3月からストップした。しかし、何かできないかと1人暮らしや高齢者の方などに市のフードドライブから預かった食糧を配ることができた。また、市の「子どもの食サポート事業」を活用して、給食がなかった又は簡易給食だった6・7・8月は週5日間食事を提供し、9・10月には日曜昼に地域のお店を借りそのお店が作ったお弁当を今まで計400食程配布することができた。 ●今回の活動で見えてきたことは、お祭りや学校行事に協賛してくれている商店などを活性化できないかということ。商店は『もう閉めないといけないかな』や『お客さんに来て欲しい』と窮地に立っている。『お弁当を配ることで、少しでもお店に人が来る様子を見たい』という思いを持ったお店とマッチングして、今回お弁当を作ってもらうことができた。お弁当を配る時に困っていることや不登校などの不安を受け止め励ますことができた。 ●コロナ禍において、子供よりも高齢者への対応が難しい。持病を持っているなどで集まれない。また、周りの方の理解が深まらない。不要不急なことをしてこの時期に何をしているのかという声もあるが何にしんどさを感じるのかは人によって違う。草の根の事業に継続的な支援が欲しい。 ●市の「子ども食堂運営支援事業補助金」は食事を提供する事業と学習支援事業があるが、食事を提供する事業は共食が条件になっている。その場で食べるのが不安な人もいるため、お弁当を配布し持ち帰ってもよいなど条件を見直して欲しい。
<p>第3回 (10月31日)</p>	<p>がん患者支援活動（任意団体） など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●がん患者会の活動について、病院での「がん患者の会」は『平日昼間しかダメ』となっている。それでは闘病中の方か、高齢の方しか参加できず、働き盛りの方子育て中の方などはなかなか参加できない。がんに罹患すると退職される方が多いが、その後の就労問題などは相談できる場所が少ない。中央病院のがん患者の会は、乳がんのみで、他の病院では病院に通っている方だけのものである。コロナ禍においてはZoomで実施したりもしているが、直接話をしたい人も多いため、カフェでランチ会などを個人で実施している。場所の提供があるとありがたい。 ●語り部など「がん教育」の活動について、本来は厚生労働省を中心に小学校・中学校を対象に今年から「がん教育」の取組が始まっていくはずだったが、コロナ禍の中で進んでいない。親ががんに罹ることも多いため、子どもへの「がん教育」を推進できないか。現在の先生の業務負担のことを考えると、録画を流すだけでもできないだろうか。
<p>第3回 (10月31日)</p>	<p>障害者の支援活動（任意活動）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●熊本地震を契機に西宮に移住した。西宮市には障害者支援に優れたNPO法人や社会福祉協議会が運営する「青葉園」があり、障害者も住みやすい街である。 ●教育現場で障害者を分けない「分けない西宮」キャンペーンをしている。インクルーシブ教育が広まれば良いと考えている。世界で障害者が最も暮らしやすい街西宮となるよう、SDGsの「障害者も共に生きる活動」の施策を推進して欲しい。